

令和5年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

学校名(大分県立久住高原農業高等学校)

1. 取組についての評価

サポート企業がデザイン思考でサポートを行ってきたことがよくわかった。その際の「ありたい姿」が、「(自分事として)農業の価値転換を図ることができる人材の育成」ということだったが、それに向けてデザイン思考で解決方法を考えてきたということ。この「自分事」というのが重要。したがって、「生徒が自発的に学習体験へ参加できる」ということを大事にしようということになる。その流れで、スマート農業に触れる学習では、技術的なことを学び、そのメリットやデメリットを考慮して「自分が経営者であったらIoT機材や最新技術とどのように向き合うかを考える」という学習になる。このようなロジックが、わかりやすい。そして、実際に生徒のアイデアを生かした試みを行っている。このような、生徒の主体的で創造的な学習活動が保障されることがとても重要だと思う。

2. 今後の課題と考えられること

3年間の取り組みを終えたところなので、今後は自走に移っていく。具体的には、全農林水産系高校12校で、デザイン思考をベースとした授業改革へと進むとのこと。大変意欲的でよいと思うが、生徒の創造的な目標設定を支援する一方、それを引き受けて試行する場面作りも重要。デザイン思考を学習に持ち込んだときには、実際のトライアル(テストの段階)を経た形成的評価がきわめて重要。ただ、それが生徒の在学中のサイクルで終わらないことも考えられる。つまり、生徒から生徒にデザイン思考をベースにした問題解決プロセスが引き継がれていくようなしくみを考えることも重要かもしれない。入学時に、先輩がどんなテーマで問題解決をしたかを知って、先輩の試みから得たフィードバックをもとに共感と問題定義を行って、自分たちなりのIdeateを続けていくような流れをカリキュラムに組み込むということも検討したい。